

地域と協同の 研究センターNEWS

2021年6月25日発行
202号

【特定非営利活動法人地域と協同の研究センター第21回通常総会報告】

第21回通常総会開会のごあいさつ

代表理事 鈴木 稔彦

昨年の総会からのこの1年の研究センターの活動はコロナのなかで、様々な問題に直面してきました。社会とくらしの様子は大きく変わり、私たちが向き合い解決していかなければならない新たな問題が山積され、至るところで困難や危機的な状況が発生しています。

大学生協は、今の状況を「学生にとっての3つの危機」と「大学生協にとっての3つの難局」として捉えました。「学生にとっての3つの危機」とは「くらしの危機」「学びの危機」「コミュニティの危機」ですが、期待で胸を膨らませ、大学に進学したのに、キャンパスには一度も入ることないまま大学生活を過ごさざるを得ない、バイト先も休業で収入も減る、親元のくらしも厳しい、大学に進学したことも後悔するような学生も少なくない実態が報告されています。

日本生協連も同様に今の状況を今年の総会議案のなかで、「事業継続の危機」「つながりの危機」「くらしの危機」「経営の危機」と4つの危機として捉えています。

このような危機的な状況が生協だけでなく、私たちのくらしや地域社会のあちこちで発生しています。特に社会的に脆弱なところでの矛盾が大きく、つながりが分断され、命とくらしが脅かされています。だからこそコロナに対しては、がまんや辛抱などという精神論でなく、科学的な根拠にもとづいた対策をすすめるべきですが、残念ながらそのような施策がだされているとは思えません。それでも私たちは目前の一つひとつの問題に立ち向かって、悩みながらも実践をつみあげ模索してきました。

この1年のなかで、私たちににとっては喜ばしい歴史的なできごともありました。昨年12月に労働者協同組合法が成立しましたが、これは、「協同の力」によってこれからの社会のあり方に大きな変化をもたらす可能性をもっています。そして、この1月には「核兵器禁止条約」が発効されました。残念なことには唯一の戦争被爆国である日本の政府は、歴史上はじめて核兵器が違法とされたこの条約に背をむけています。しかし、現在、世界の国々では批准54カ国、署名86カ国となっており、世界の大きな潮流になっていることは間違いありません。この核兵器禁止条約の成立、発効はある意味、歴史の必然でもあります。私たち人類はヒロシマ・ナガサキをはじめ、多くの悲しい歴史を経験してきましたが、それを乗り越えようと知恵を出し合い、手をとりあってきました。そういう強靱なレジリエンス、復元力を私たちはそもそもそなえており、協同の運動は、その力を発揮するうえで、大変重要な役割を果たしているのだと思います。皆が手と手をとりあって、自ら主体的に、そして具体的に自らの想いを実現していく協同の運動は、これからの持続可能な社会を生み出す中心的な担い手になっていくのでしょうか。

未だ、霧がすっかり晴れたわけではありません。しかし、これからの1年、私たちのすすむべき道を研究センターの活動のなかでしっかり示していけるように、みなさんに忌憚のない熱心な議案の審議をお願いして、総会開会にあたってのご挨拶といたします。

(すずき としひこ)

研究センター6月の活動

3日(木) 名市大寄付講義⑧	17日(木) 名市大寄付講義⑩
10日(木) 名市大寄付講義⑨	19日(土) 難民食料支援学習会
16日(木) 三河地域懇談会世話人会	24日(木) 名市大寄付講義⑪
	25日(金) 第1回常任理事会

※ コロナウイルス感染拡大予防のため、さまざまな活動を自粛しています。

目次	第21回通常総会 開会挨拶	1	情報クリップ	5
	第20回通常総会報告	2	書籍紹介・企画案内	8
	第21回総会記念企画シンポジウム	3		

第21回通常総会の報告

第21回通常総会を5月22日（土）に開催いたしました。新型コロナウイルス感染防止に配慮し、書面及び委任での表決参加もお願いし、「役員の一部補欠選挙」では「書面役員投票」も採用し、当日はオンラインも併用し、討論に参加できるようにし、開催しました。

冒頭、司会者の渡辺勝弘事務局長から、総会の出席者について、開会時点で145会員（実出席26名、書面表決者118名、委任1名）となり、正会員244名（個人正会員223会員、団体正会員21会員）の過半数123名以上に達しており、第21回通常総会が成立していることの報告があり、定款29条に基づき開会となりました。

理事会からの推薦が承認され伊串徹理事、渡辺文人理事が議長の任につかれました。オンラインでの鈴木稔彦代表理事あいさつ（巻頭掲載）の後、向井忍専務理事から、議案書に基づき第1号議案「2020年度事業報告と決算」の提案、第2号議案「第5期中期計画、および2021年度事業計画と予算」の提案がありました。また書面による出席者からも多くの意見が寄せられ、向井忍専務理事から提案の中で一部回答がありました。次に監事を代表して中萩勇紀男監事から監査報告書に基づきオンラインで監査の報告がありました。その後、質疑・討論に入りました。会場で3名、オンラインで3名の会員から、以下の発言がありました。

- ①津坂 賢一 会員 「2030年及び2040年に向けて、地域と協同の研究センターは、社会的弱者が置かれている構造を適切に解きほぐし、励ます視点を与え、社会の中で人と人をつなげるプラットフォームとして有効に機能する存在でいて欲しい。」
- ②八木 憲一郎 会員 「各協同組合のビジョン達成に寄与し、研究センターとして自立して、多くの協同組合と連携してすすめていけるよう第5期中期計画に取り組んでいきたい。また4つの柱は、生活協同組合への大きな期待。東海からの発信を強くすすめていきたい。」
- ③朝倉 美江 会員 「労働者協同組合法が成立し、働くということの新しい方法ができた。自分達のくらしと仕事のつながりが問われている。労協の取り組みに焦点をあてて考えてもいいのでは。大きな変革期にあり、さらに持続可能性について取り上げて欲しい。」
- ④椋木 真佐子 会員 「研究フォーラム地域福祉を支える市民協同の活動について、2020年度にブックレットを作成した。普及する中で、多くの人に受け止められ、大きな力になっている。」
- ⑤大村 洋子 会員 「三重地域懇談会では、多文化共生社会について調査し考えてきた。コロナ禍の中、生活の困難が広がっている。地域で安心してくらしていけるように、地域社会づくりについて話し合っていく。」
- ⑥近松 香代 会員 「岐阜地域懇談会では恵那市にある坂折棚田の調査を行った。2021年度は引き続き地域の皆さんと交流しすすめていきたい。」

議長は討論を打ち切って、向井忍専務理事が質問に対する回答とまとめを行い、採決を行いました。

第3号議案の「役員の一部補欠選挙」について、議長から役員の任期は2年ですが、理事を辞任される方が愛知地域枠で2名おり補欠選挙を行うことの報告がありました。続いて役員選出管理委員の平光佐知子委員から、第4回理事会にて理事の補欠選挙の選出枠と定数を「愛知地域枠2名」と決め、立候補受付の公示をしたところ、理事会からの推薦者として愛知地域枠2名の理事立候補があったと報告されました。

続いて、役員選考委員の杉原昌博会員から、候補者名簿に基づいて立候補者の紹介がありました。

次に役員選出管理委員の平光佐知子委員から、役員選出規約第6条に基づき、「支持数の多い順に役員として選出される」ものとするとの選出方法の説明があり、投票を行いました。投票の結果、愛知地域枠・定数2について、書面役員投票含め有効投票総数142票中最低支持数136票をもって立候補者の2名が選出された旨平光佐知子委員から報告がありました。

次に議長が第1号議案、第2号議案について、それぞれ挙手で採決を行い、第1号議案、第2号議案について、圧倒的多数の賛成で可決された。採決結果は次の通りです。

第1号議案 2020年度事業報告と決算承認の件 反対2 保留0 賛成 圧倒的多数

第2号議案 第5期中期計画、および2021年度事業計画と予算決定の件

反対2 保留2 賛成 圧倒的多数

以上で議事が終了となり、第20回特定非営利活動法人地域と協同の研究センター総会は閉会しました。

【文責：事務局・大島三津夫】

第21回通常総会記念シンポジウム

「新しい市民社会」に向けて ―調査研究成果から考える―

【文責：事務局・大島三津夫】

2021年5月22日(土) 地域と協同の研究センター第21回通常総会記念シンポジウムを開催しました。コープあいち生協生活文化会館(名古屋市)を会場とし、現地参加とオンライン参加合わせて90人の参加での開催となりました。前半は地域と協同の研究センターですすめてきた調査・研究の成果から3つの報告があり、後半はその報告を通じ「新しい市民社会」に(協同組合は)どう向き合うかをテーマにディスカッションを行いました。ここでは前半の報告の一部と後半の田中夏子さんからの提起の一部をご紹介します。

趣旨説明

向井忍(地域と協同の研究センター 専務理事)

地域と協同の研究センターでは、3年前に調査・研究テーマを設け、調査を行い、研究的な議論をし、その成果をまとめてきました。その内容をもとに、「新しい市民社会」とは何か、どういう方向を考えるのかと今回の企画を持ちました。私たちが生活しているコミュニティは、人口が変化し、農村から都市へ人口が移動し、90年代からグローバル化が進行し、産業が発展し、人口のピークを迎えました。会社の中で働く、コミュニティで支え合うということを前提に、生活協同組合も進んできました。しかし今は行政自身もコミュニティを運営で市民の力を借りないといけないという状況です。この延長線上で2040年を迎える時、私たちの生活の足場はどうなっているのか。認知症高齢者の増大も含め、高齢者が大半を占めるといふ社会での支え合いということが一つのテーマです。もう一つ、90年代以降、外国にルーツを持つ人達がたくさん日本で働くようになりました。コミュニティを構成する人達の関係も変化し、この二つの軸で変化を考えます。AI、IoTの進展、情報化の中で、人と人の関係も変わり、そういう中で時代を考えたいと思います。「おたがいさま2040」「多文化社会と協同組合」この二つのテーマがどういう社会像を描くか、新しい時代に協同組合はどういうふうに向き合えるのか、深めていただきたいと思います。

第一部 メッセージ

報告(1) 「おたがいさま2040研究会」をふまえて 橋本吉広(地域と協同の研究センター研究員)

1. おたがいさま2040研究会報告書『“おたがいさま市民”の生協像～2040・転形期を展望して』の構成と研究会が目的としたこと

研究会の目的は、「超高齢社会が進行していくなかで、1300万人とも予測される認知症患者と診断された高齢者の方々(軽度認知障害者; MCIを含む)を含め、すべての人びとが支え合いながら生きていく地域社会と、そこでの協同組合の社会的な役割とこれを担う協同組合のあり方について検討する」ことです。研究会の名称としては「おたがいさま2040研究会」としてきました。

2. 奇しくも2020年コロナパンデミックがあきらかにした「真実」

そのような2040年まで20年となった2020年、私達は新型コロナウイルスによるコロナパンデミックを経験し、いまもそのただ中にいます。一つは、“人々のつながり”は、いまや地球レベルの広がりをもちながらも、相互の関係が見えない/見えなくてもいい市場社会のシステムが内包する脆弱性(フレイル)をあぶり出したこと。いま一つは、そこから“人々のつながり”を回復していく可能性(レジリエンス)が示唆されたことです。人におけるフレイルとレジリエンスの仕組みを、社会の動向を解くフレームと考えます。

3. “人々のつながり”の一つの視点としての“おたがいさま”共同体=“おたがいさまコープ”の提唱

さて、コロナパンデミックがもたらした、“人々のつながり”を回復していく可能性(レジリエンス)が示唆されたことに対応し、“人々のつながり”の回復というレジリエンスをどのような形で方向付けるか、報告書で“おたがいさまコープ”という生協の提案をしています。“おたがいさまコープ”とは“おたがいさま”という組合員のニーズや願いを実現することを目的とする生活協同組合、“人々のつながり”を回復していく回路としての生協のこととし、現在の生協からの転形、位相転換を呼びかけます。生協は、目的を実現するため、協同組合の機能面の純化・高度化=「手段としての協同」の強化を進めます。ところが、市場社会は作る人と使う人の関係を広げながら、その関係を不可視化しつつ機能を強化してきました。このことを「手段としての協同」強化志向として捉え、そこから「目的としての協同」の回復モデルへの転形・位相転換と表現しています。“人々のつながり”をどう回復し、強化する生協になるかです。「目的としての協同」志向の生協を、報告書では「アソシエーション2.0」という表現で一般化しています。

報告(2) 多様な個性をいかし合う協同組合像 神田すみれ(地域と協同の研究センター研究員)

新型コロナウイルスによる感染症が拡大する中で、多くの人がたいへんな状況におちいっていますが、一方でオンライン化され、働きやすくなった、生きやすくなった人たちにもたくさん会っています。コロナで在宅となり過ごしやすくなったというのは、外見や属性ではない本来その人が持つ力を表現しやすくなったということかと思えます。今AIが発展する中で、日常会話、ちょっとしたおしゃべりは自動翻訳機を使えばできるようになりました。日本は年齢差別が大きいと海外から来た人は驚かれる方が多くいます。若い方や高齢の方への差別が、私たちが認識していない中で起こっていたりします。AIがすすむ中で、それがこれからどんどん壁が低くなっていく、その人が本来持っているものを表現しやすくなるのではないかと思います。

す。人口減少、多文化化、情報化がすすむ社会で、異なる個性を持つ人が協同する社会になるのか、考えてみたいと思います。私が最近注目している企業や地域の実践を紹介します。

三重県にあるユマニテック医療福祉大学校では日本人と留学生が隣同士で座りペアワークで授業を受けています。授業中ざわざわしているのですが、それは日本人学生が隣に座る留学生に講義をやさしい日本語におきかえて通訳しています。Man to Man 株式会社で若い日系人の社員たちが取り組む事業の事例、西尾市教育委員会で働くインドネシア出身の方を市の広報で紹介している事例、犬山市役所で通訳を委託ではなく直接雇用していること、ゆたか福祉会の障がい者福祉の多様な人が一緒に働くという経験、豊田市の保見団地の中にあるケアセンターほみの事例、海外にある移民による協同組合の事例等があります。

多文化化がすすむ中で、共に支え合い、一緒に社会をつくっていくという関係性をつくっていかなければと思います。新しい社会の構成員は誰なのか。私たちは誰とともに暮らし、働き、支え合うのか？そのため必要なことは何でしょうか？協同組合の役割は何でしょうか？

報告(3) 情報化社会と生協

鳥居弘志 (名城大学経営学部教授)

これまで何度かの産業革命を経験してきました。第1次産業革命は蒸気機関等の発明がされたことです。新しい技術が生まれ、市場経済が始まります。併せて、工場ができ、そこで働く、街へ出る、企業で働くといった現在の就業スタイルが現れます。そして第二次産業革命があり、電力、内燃機関が主要な技術で、ベルトコンベヤー式の生産が始まり、大量生産が可能になります。第四次産業革命(デジタル化)は、ICT、データが主導する産業と社会の変革を目指すスローガンのもと、進行しています。デジタル化で様々なデータを連携させ、うまく活用して新たな価値を創造していこうとしています。コンピューターの性能は、1年半ではほぼ2倍になると言われています。これは過去50年、60年の間ずっと続いてきました。1990年のころと比べて今のコンピューターは100万倍の能力差があります。そしてソフトウェアの面で見ると、これまで困難だった音声とか画像の認識力が急激に高まってきました。この技術はハードウェアのパワーをフルに使って処理をしていくという新しい考え方にもとづいています。人間がなんらかの推論にもとづいて理論を立て問題を解いていくのではなく、推論を機械に考えさせるという使い方がこれからすすんでいきます。AI・機械学習というものがどんどん使われるようになっていきます。AIを活用し、学習・認識・判断というこれまで人間しかできないと思われていた業務が徐々に機械に置き換わっていきます。データを共有することで、サプライチェーン全体の効率化を図っていくこととなります。これはインダストリー4.0として世界中の国々が計画を立てています。そこでは営業・生産・流通・決済とすべてを連携させ、効率的に生産をすすめていくことがこれからますますすすみます。

人と人がつながり、笑顔があふれ、信頼が広がる新しい社会を実現するためには何をすべきか。生協の理念を実現するためには、どんなことを考えていけばいいのか。生協の強みは組合員とのつながりの中にあるはずですが。その組合員との関係をどうしていくのか。組合員の参加を促進する、組合員同士の交流をもっと重視する必要があるのではないかと、そして社会に対する貢献、地域コミュニティの再生に組合員の力をもっと使うということも考えてもいいのではないかと思います。

情報技術を活用して生協は何ができるのか？まずはICTを活用して組合員のニーズを把握するということです。そして組合員が相互にコミュニケーションできるようなネットワークの構築。消費・生活・健康に対しアドバイザー的な役割を果たすことも考えていく必要があります。

第二部 「新しい市民社会」に(協同組合は)どう向き合うのか

議論したい点

田中夏子(協同組合研究者)

1.報告(1)、報告(2)からの投げかけられていること(田中の受け止め)

報告(1)では、協同組合が培ってきた「おたがいさま」論をあらためて掘り下げ、そこから「新しい市民社会」になく「アソシエーション2.0」を提起し、そこでの「ささえあい」の質を、従来の手段的なものに留まらない、包摂力を備えるものとして描き出していました。協同組合が競争的な市場関係の影響下、おたがいさまが見えにくくなり、これを掘り起こすと同時に、そこにどのように新たな意味を盛り込むのか、「街場の哲学」をもって問いかけるものでした。

報告(2)では、少し以前までは、協同組合がほとんど意識してこなかった外国にルーツを持つ人々をめぐって、多様な事例や関係者との対話、ご自身の実践経験から、「共に生きる」ための探究を投げかけるものでした。

2 両報告を通じて、何を課題と考えるか

前者は、足元にあったはずの「おたがいさま」の脆弱化を問い、また後者は、近くにいっても社会的には距離のある人々との「共生」を、協同組合陣営が、「わがこと」として受け止めてこなかったのはなぜなのか、そして「わがこと」と受け止める必要性やそのあり方とはどのようなものなのかを提起するものでした。

2つは別々の課題ではなく、冒頭、向井さんの趣旨説明にもあったように、「社会の脆弱さ」は、珠数つながりになっていて、「おたがいさま」が見えにくくなっていることと、外国にルーツがある人々が日本社会で抱え込まれている困難は、両者とも、私たちの社会の脆弱さに起因していると考えます。

自らの共益的な活動を質的にも問い直しながら、そこからこぼれている人々、共益への結集の機会すら奪われている人たちとの結びあいを探求するために、協同組合は何ができるのか…これらが、両報告が私たちに問うている課題と考えます。

情報クリップ



co-opnavi 2021.6 No.829

生協の事業継続とそれを支える職員を守る安全衛生管理

日本生活協同組合連合会 2021年6月 A4判 36頁 367円(消費税込)

<コープ商品のある風景>

CO・OPファミリーチョコレート

コープみらい 組合員 石塚千尋さん

特集

生協の事業継続とそれを支える職員を守る安全衛生管理

<今日も笑顔のコープさん生協の仲間のお仕事拝見>

コープみえ 北原美晴さん

<想いをかたちにコープ商品>

CO・OPくちどけなめらかアイス宇治抹茶

<生協大好きママ コブ山さんの 教えて! CO・OP商品>

CO・OP大豆と野菜の煮物

CO・OPひじき五目煮

<コープ商品・虫の目チェック!>

パッケージのユニバーサルデザイン

<ZOOM IN 生協の店舗づくり>

コープこうべ コープ北口食彩館

<日本全国宅配現場におじゃまします!>

ユーコープ/京都生協

<With コロナ時代の組合員活動>

おかやまコープ

SDGs REPORT

コープえひめ

<みんなで学ぼう! 生協 10 の基本ケア>

「生きづらさ」を抱えても

「自分らしい暮らし」を諦めない介護

<この人に聴きたい>

文学紹介者

頭木弘樹さん

<ホット navi>

CO・OPとやま/生協くまもと

月刊JA 2021.6 vol.796

第 29 回 JA 全国大会に向けて③

全国農業協同組合中央会 2021年6月 A4判 48頁 年間予約 5,204円(消費税込)

特集

第 29 回 JA 全国大会に向けて ③

ーコロナ禍における生協の対応について 伊藤治郎

スゴイ農業、スゴイ JA

JA 自己改革の現場から

みらい投資を成功につなげる長期ビジョン

「ネクスト 10」の取り組み

ー JA 鹿児島きもつき (鹿児島県) の

イノベーションへの挑戦

東口昌弘

きずな春秋 ー協同のこころー

童門冬二

展望 JA の進むべき道

JA 経営マスターコースについて

石堂真弘 (JA 全中常務理事)

協同組合の理解促進に向けて

第 3 回 茨城大学での試みについて

古山 均

私のオピニオン ①

隈 研吾

私のオピニオン ②

蜷川実花

JA 全中マンスリーレポート 5 月

協同組合と SDGs 第 25 回

こくみん共済 COOP における SDGs への取り組み

こくみん共済 COOP

協同組合の広場

(日本生協連、JF 全漁連、全森連、全国大学生協連)

「日本公認会計士協会春季全国研修会」

における研修開催の報告 みのり監査法人

海外だより [D.C. 通信] 連載 120

コロナ禍から見える支援の格差

伊澤 岳

第 31 回 広報活動優良 JA 紹介

総合の部 準大賞 JA いわて中央 (岩手県)

トピック コロナ禍の農業・農村

新型コロナウイルスの切り花産地:

向き合う困難と新しい展望

杉村泰彦

地域を元気にする人たち

「お手伝い」だから築ける関係づくり

地方と若者の「交流」を生み出す

山岡淳一郎/永岡里菜

生活協同組合研究 2021.6 No.545
住宅をめぐる問題と支え合いの住まいづくり
 公益財団法人 生協総合研究所 2021 年 6 月 B5 判 64 頁 定価 550 円 (税込み)

■ 巻頭言
 コロナ禍の下でも助け合いの組織として
 ～活動は続くよ、どこまでも～ 新井ちとせ

特集
住宅をめぐる問題と支え合いの住まいづくり
 住宅問題とは何か
 — “脱商品化／再商品化” の視点から — 平山洋介
 新型コロナウイルス感染症の拡大により顕在化する
 住宅アフォーダビリティの課題 川田菜穂子
 住民の支え合いを通じた安心の住まいに向けて
 小林秀樹

デンマークの「みんなの家」とは何か？
 — 社会住宅の意義と課題に着目して — 倉知真太郎
 コラム 1 地域にとけこんだ安心の住まい
 南医療生活協同組合の多世代共生住宅
 山崎由希子

コラム 2 韓国・ソウル市における住宅問題に関する
 非営利組織の活動
 — Sohaengju の事例を中心に — 鄭 城尤

■ 研究と調査
 2 頭のロバの絵は 2 頭のラバの絵だった 鈴木 岳
 ■ 本誌特集を読んで (2021・4)
 中川雄一郎・小野澤康晴

■ 新刊案内
 平山洋介著『マイホームの彼方に』・・・山崎由希子
 稲葉剛他 (編)『コロナ禍の東京を駆ける』
 ・・・山崎由希子

● 2021 年度開催公開研究会 (6 月～7 月)
 ・ 認知症高齢者の生活支援 (6/17)
 ・ 「消費生活協同組合の日」の登録を記念して (7/30)
 ● 生協総研賞「第 19 回助成事業」の応募要領 (抄)

文化連情報 2021.6 No.519
安定供給・価格対策と感染予防に最大限の注力
「コロナ対策特別アピール」に基づく令和 3 年度実践方針
 日本文化厚生農業協同組合連合会 2021 年 6 月 B5 判 88 頁 文化連情報編集部 03-3370-2529 *注

農協組合長インタビュー (73)
 全国の 4 分の 1 の生産量を誇るれんこんの産地
 池田 正

安定供給・価格対策と感染予防に最大限の注力
 「コロナ対策特別アピール」に基づく令和 3 年度実践方針
 本谷彰弘

令和 3 年春の勲章
 日本文化厚生農業協同組合連合会
 前経営管理委員会会長 (現顧問)
 神尾 透氏が旭日小綬章を受賞されました

令和 3 年度事業計画を決定
 厚生連医療・農協福祉の経営改善と
 安心の地域づくりを支援

日本文化厚生連第 27 回臨時総会を開催
 院長インタビュー (327)
 再編構想が始動、新病院に医師集約し
 教育研究の体制整備へ 西脇伸二

二木教授の医療時評 (191)
 医療保険の一部負担は究極的には
 全年齢で廃止すべきと私が考える理由

— 二つのジレンマにも触れながら — 二木 立
 農のある暮らしから水害と治水を捉えなおす (2)
 台風 19 号災害の経験知を生かせるか 川妻干将

アメリカの医療政策動向 (11)
 バイデン政権の経済財政計画
 — アメリカ雇用計画と予算要求 — 高山一夫

変わる日本のまちづくり (12)
 認定 NPO 法人じゃんけんぼん (群馬県高崎市)
 — ふれあいからはじまる支え合いのまちづくり —
 杉岡直人・島山明子

ドイツの対 COVID-19 戦略
 非常ブレーキ効果と、新たな課題 吉田恵子
 多様な福祉レジームと海外人材 (37)
 経済連携協定 (EPA) による介護従事者の動向①
 安里和晃

臨床倫理メディエーション (52)
 日本の予防接種政策におけるリスクと責任 (2)
 — 不確実性のリスクと予防接種② — 中西淑美

アフガニスタンから見た世界と日本 (13)
 在留米軍の完全撤退の結果アフガニスタンは
 再度テロの温床となるのか
 レンヤード カレッド

デンマーク & 世界の地域居住 (144)
 福祉組織「ディナモ(Dynamo)」のソーシャルワーク 2
 松岡洋子

熱帯の自然誌 (63) サバにて暮らす 安間繁樹
 ドイツの介護保険制度 (20)
 ソーシャルステーション・ベルグアムライム・
 ウント・トゥルーディング非営利有限会社 ③
 ソーシャルステーションの運営 小磯明

◆ 第 39 回厚生連薬剤師研修会 開催のお知らせ
 ◆ 農協福祉事業「WEB 道場」開催のお知らせ
 ◆ 第 60 回農村医学夏季大学講座 開催のお知らせ

- 自著を語る
農村政策の変貌 その軌跡と新たな構想
／小田切徳美
- 自著を語る
マーケットイン型産地づくりと
JA 農協共販の新段階への接近 ／板橋 衛
- 書籍紹介 医療と介護 3つのベクトル
- 書籍紹介 世界一わかりやすい「医療政策」の教科書

- ◇ 【資料】 医療団体等のコロナ関連、
医療施策等への対応の紹介
- ▼ 線路は続く (152)
えりも岬を目指した日高本線 ／ 西出健史
- ▼ 最近見た映画
ジェントルメン ／ 菅原育子

生協運営資料 2021.5 No. 319
2030 年ビジョン達成に向けた生協の福祉経営戦略
 日本生活協同組合連合会 2021 年 5 月 B5 判 104 頁 886 円 (消費税込)

巻頭インタビュー

●わが生協、かくありたい!

行政や他団体などと連携し、地域住民の暮らしを
生涯にわたって支え続けていきたい
生協ひろしま ● 専務理事 横山弘成氏

特集

2030 年ビジョン達成に向けた生協の福祉経営戦略

- 1 利用者・地域を支える福祉介護事業の強化と
未来開発によって「生涯を通じたお役立ち」
を実現する
社会福祉法人協同福祉会 ● 理事長 村城 正氏
日本生協連 ● 組織推進本部 福祉事業推進部
山際 淳氏
- 2 行政と連携し、生協の事業・活動で住み慣れた
地域での高齢者の自分らしい暮らしを支え続ける
豊明市 ● 地域福祉部健康長寿課 課長補佐
(現・市民生活部 市民協働課 課長) 松本小牧氏
コープあいち ●
コープ宅配事業支援本部 執行役員 渡邊 秀氏
尾張南ブロック ブロック長
(現・尾張東ブロック ブロック長) 本川尚史氏
企業組合ワーカーズコープあいち ●
代表 生田美穂子氏

- 3 現場で蓄積されたデータの解析で
創出する“未来の介護”

SOMPO ホールディングス株式会社

● シニアマーケット事業部課長 安田雄介氏
連載

●これからの店舗事業のあり方を考える

第 29 回 消費者の変化に対応した

新しい SM モデルの確立に向けた挑戦

株式会社カスミ ● 代表取締役社長 山本慎一郎氏

新連載

●シリーズ わが生協の「2030 年ビジョン」

第 1 回 ビジョンの実現で、地域に寄り添い

つながる力で人びとの笑顔を広げていく

大阪いずみ市民生協 ● 専務理事 久保幸雄氏

特別企画

「持続可能で活力ある地域社会の実現」を

目的に掲げる「労働者協同組合法」の成立

日本労働者協同組合 (ワーカーズコープ) 連合会 ●

理事長 古村伸宏氏

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(♣)などを中心に順不同で紹介しています (主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

書籍紹介

井貝 順子会員からの書籍ご紹介

「その女、ジルバ」1巻～5巻 (ビッグコミックス)

著者：有間しのぶ 出版社：小学館
2013/2～ コミック 価格：各 650 円 (税込)

内容紹介 (井貝順子さん)

この漫画は、2011 年東日本大震災より後に描かれた。それが大きな意味を持っている。主人公のアアラ (本名は 笛吹新) は、30 代までは、本社の売り場勤務だったけれど、今は姥捨て山と呼ばれる「大型スーパー倉庫」で働いている。人生の残高を考えつつ街を歩いていると、ホステス募集の張り紙を発見。時給に釣られて近付いて見ると何と募集は 40 才以上という信じられない年齢。そこは、伝説のママ・ジルバの店「BAR OLD JACK & ROSE」終戦直後から夜の世界で生きてきたホステスたちの高齢バー、40 歳の新米ホステスアアラはいつだってギャル扱い。成り行き任せで見習いとして店で働き事になったアアラだが、戦後の焼け野原から生き残った高齢ホステス達と、お金に詳しいマスター (も高齢)、高齢のオババホステスたちに会いに来て来るお客さんたちに、温かく時に厳しく見守られ徐々に元気になっていくアアラ。

伝説のジルバは、実は、ブラジル移民だった。ブラジル移民の歴史が丁寧に描かれているが、明治以降の官製移民とは、ほぼ「棄民」にも等しい政策だった、とよく言われる。「棄民」という言葉は、この漫画のあちこちのエピソードの根底に流れるテーマだ。実はアアラの出身は、福島県、今も福島に住むアアラの甥は、「これから自分はどうなるのだろうか？」という不安をアアラに漏らす。

ジルバの時代の移民の子孫が、日本に現在住んで働いている、日系ブラジル人の人々だ。その子孫が、あからさまに差別的な待遇のもと、いまの日本社会のなかにかりそめの居場所を得ている状態について、考えさせられる。大上段に戦争や政治について語ってはいないけれど、いろいろなことに気づかせてくれる優れた漫画です。また、「BAR OLD JACK & ROSE」は、マスターは一応経営者ですが、みんなで出資運営している協同労働的な、場所です。2019 年手塚治虫文化賞 マンガ大賞を受賞。

「これから自分はどうなるのだろうか？」という不安をアアラに漏らす。

企画案内

第48回中央社会保障学校 from 名古屋

コロナ禍、いのち・くらしの「危機」が迫るみんなの安心支える社会保障を考える

日程：2021年8月28日(土)～29日(日)

会場：愛知労働会館ホール(名古屋市)と全国をオンライン (Zoom) で結んで開催

28日(土)第1講座 13:15～14:45 講師：石川康宏氏(神戸女学院大学教授)

13:00 開会 コロナ禍の日本の政治・社会をどう見るか、どう展望するか(仮題)

第2講座 15:15～16:30 講師：村田隆史氏(京都府立大学准教授)

社会保障入門講座～「社会保障入門テキスト」を学ぶ

29日(日)第3講座 9:30～12:30 コーディネーター：長友薫輝氏(三重短大教授)

9:30～13:00閉会 シンポジウム コロナ禍の社会保障、課題は

一医療、保健所、保育、支部活動の現場からの検証

申込は右のQRコードもしくは社保協ホームページより申込できます。

・参加費：1日1000円 ・申込締め切り 8月10日

主催：中央社会保障推進協議会・第48回中央社保学校現地実行委員会

TEL03(5808)5344 FAX 03(5808)5345 E-mail:k25@shahokyou.jp



地域と協同の研究センター7月の予定

- | | |
|--|--|
| 1日(木) 名市大寄付講義⑫
三河地域懇談会「豊橋生協会館に寄りまいかん」オンラインミニ企画第3弾 | 15日(木) 名市大寄付講義⑭ |
| 2日(金) 協同の未来塾①
2021 国際協同組合デー記念行事 in 愛知 | 17日(土) 東海交流フォーラム実行委員会・第2回理事会 |
| 3日(土) 共同購入事業マイスターコース① | 22日(木) 名市大寄付講義⑮ |
| 6日(火) 三河地域懇談会世話人会 | 24日(土) おたがいさま 2040 研究会報告書刊行記念オンライン企画第2回 |
| 8日(木) 名市大寄付講義⑬ | 29日(木) 協同の未来塾② |
| 9日(金) 第5期研究奨励助成報告会 | 30日(金) 生協の(未来の)あり方研究会
三河地域懇談会生協総研公開研究会「改めて戦後日本の生協史をまなぶ」 |
| 10日(土) おたがいさま 2040 研究会報告書刊行記念オンライン企画第1回 | 31日(土) 友愛・協同セミナー2021 |

※企画は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止・延期することがあります。ご参加の前にホームページ等でご確認ください。